

2024年度 事業報告

常務理事 胎中晴美

数年間続いていた、社会全体の閉塞感が少しずつ解放されて来たことを感じられるようになり、法人全体に於いても色々な行事が復活し、今までの『あゆみらしさ』を取り戻すことができた年であった。特に、地域社会との連携や、各種学校等との交流も久しぶりに実施することができ、お互い近くで顔の見える関係を持つことができ、楽しい機会となった。

昨年度より法人全体を4部門に分けて各施設長を含めて定期的に谷野会計事務所所長を講師に迎え、経営、財務関連についての研修を実施した。昨年度の各事業の決算における厳しい結果を踏まえ、「何とか改善しなければ」といった思いで、事業所間の連携も密にしながら、改善策を検討した。第一に経費の無駄を省く工夫、そして人件費削減への取り組みをしつつ、支援費の加算が多くとれて収益増となるような人員配置も行った結果、今年度は安定的な結果につながった。

また、経営面でのもう一つのポイントとしては、利用者の皆さんの満足度が何より大切になる。これは各事業の利用率といった形での把握ができ、直接処遇における支援の質の向上が大切な要因となる。職員ひとり一人が利用者の皆さんとどのように関わるかといった基本的な姿勢、福祉観等が最も重要なものとなる。例年実践している事ではあるが、特に今年度は、定期的な職員研修において、主任会議が中心となり支援現場における課題の抽出やその解決方法等について、職員相互が意見を出し合えるような機会をつくり、「我がこと」として捉えられるよう進めていった。徐々に職員ひとり一人の思いが表出しつつあり、風通しの良い職場環境にもなりつつある。また、支援者としてのスキルアップにも意欲的な職員も多く出てきている。資格に対する手当加算だけでなく、取得しやすい環境の整備を検討している。

これからも、法人の理念「みんななかま、支え合うなかま」に沿って益々職員相互が意見を出し合い、利用者の思いを大切にできるよう一緒に支援を進めていきたい。

〈2024年度の計画の振り返り〉

1. 各事業間の連携を取り、安定利用を促進し、円滑な運営に繋げる。

事業者間での連携・協力体制と常に持って遂行した。特に支援等においては、相談支援事業との連携も持ち、利用者の思いの把握と支援の方向性を確認しつつ行った。

安定的な利用の促進においては各施設長から直接保護者と面談したり、本人と話し合う等の対策を実践し、利用増につながった。

2. 職員養成研修・虐待防止の研修

定期的な職員研修を持ち、内容に関しては主任会議等でも検討し、直接職員の思いに寄り添える内容を目指した。グループワークやロールプレイ形式を取り入れつつ、我がこととして考える機会とした。

年間3回の虐待防止委員会の開催を実践し、身体拘束の禁止や虐待事例等について

話し合った。第三者委員の参加もあり、外部から見た意見をもらった。

3、地域連携

地域の小中学校との連携、実習がコロナ前の形に戻り多くの交流が持てた。

奈良大学の社会体験実習に協力し、大学祭でパン工房との連携販売にもつながった。

各種団体の方々がお祭りへ参加していただき、有意義な時間を交流できた。

4、グループホームの増設計画

11月に秋篠町の民家を借り上げ、男性のグループホームの開所に向けて準備を進めた。障害程度区分の高い方々を中心としたグループホームなので支援者も体験を積む必要があり、体験利用から始めていった。

本来希望しているグループホームの建築まで、諸条件での規制が多く長引くことも考慮して、今回の開所となっている。

5、災害及び感染症等の対策

新型コロナ感染症が5類相当となったので、感染に際しての報告義務等がなくなったが、予防対策は継続している。感染報告はかなり減少している。

災害及び感染症に対する事業持続可能な対策(BCP)の整備を行い、万が一の場合は、地域の防災拠点等との連携を持ち、いち早く行動できるように努めている。

福祉避難所としての役割もある。

〈2025年3月末現在の状況〉

「常勤職員数」

法人本部	2名
オープンスペース AYUMI	14名
サポートシステムあゆみ	14名
放課後等デイサービス	4名
グループホーム	6名
相談支援	2名

「非常勤職員数」

オープンスペース AYUMI	20名
サポートシステムあゆみ	4名
放課後等デイサービス	10名
グループホーム	11名
看護師	1名、

「委託契約」

管理栄養士	1名、	医師	1名、
-------	-----	----	-----